



諏訪湖通信61号

令和5年7月20日号 発行: 諏訪湖創生ビジョン推進会議



2年ぶり テナガエビ漁 “解禁” 令和元年に次いで豊漁!!

テナガエビは、長い2本の前脚が特徴的な体長9cmほどの淡水性のエビです。諏訪湖には1924年に霞ヶ浦から持ち込まれたとされています。

エビ漁は諏訪湖の夏の風物詩で、諏訪湖漁業協同組合を通じて川魚店に卸され、地元のホテルや料亭等で提供されています。

このテナガエビはブラックバスやブルーギルによる捕食などにより近年漁獲量が減少傾向で、同漁協では令和3年は漁期の途中で禁漁、令和4年度は全期間禁漁として資源の回復を図ってきました。

今年は6月の1か月間、漁が行われ、208kgの水揚げがありました。藤森組合長にお聞きしたところ「6月2日の大雨で大量のごみが流入して、漁に影響がでないか心配していたが、今年は豊漁で一安心。特に間欠泉センター周辺で多くの水揚げがあった」とのことです。ここ数年の漁獲量が芳しくなかっただけに、組合員の方々はとても喜んでいました。



19名の漁師により水揚げされたテナガエビなど(10.8kg) (6月3日)

テナガエビは7月から8月にかけて産卵期となるため、本年の漁は終了しましたが、ワカサギと並び諏訪湖の貴重な水産資源です。今後も漁と資源確保のバランスを図りながら、テナガエビがたくさん取れることを期待しています。



テナガエビの素揚げ



漁具の「エビかご」

諏訪湖の日プロジェクト 協賛企画・協賛広告募集中

諏訪湖創生ビジョン推進会議では「10月1日 諏訪湖の日」にちなみ、諏訪湖に感謝し、守り、活かしていく取組等を募集しています。

詳細はこちら↓(期限: 令和5年7月28日)
<https://www.pref.nagano.lg.jp/suwachi/suwachi-kikaku/vision/suwakonohi.html>

初企画!! 諏訪湖を日本泳法で泳ぐ



初島に向かって隊列を組んで泳ぐメンバー

令和5年7月2日(日)に諏訪湖(石影公園)で開催された県水泳連盟日本泳法委員会の初企画。7人の泳者が諏訪湖に入水し、初島周辺まで一団となって泳ぎ、日頃プールで練習している成果(泳法)を自然の水の中で実践しました。

泳者からは「初めての自然の水で緊張した。ヒシが手足に絡まり泳ぎづらかったが無理に手をかくことなく”ヒシが絡んでは手を戻す”など工夫して泳いだ」と、まさに自然環境に順応しながら泳ぐという日本泳法ならではの感想が聞かれました。委員会によると、今後、年一回は研修を企画したいとのことでした。



(参考)日本泳法とは武芸の一つとして古くから伝えられ、海や川、池などの様々な自然環境に合わせた泳法で通常の泳ぎ以外に、長距離を泳ぐ、身を守りながら泳ぐなどその目的別に編み出されたものでかつては武士のたしなみとして重んじられていたといわれています。

3日間で延べ147名参加、手作業によるヒシ刈り

諏訪湖創生ビジョン推進会議では、湖岸域の貧酸素化や枯死による底質環境の悪化、船の運航障害、景観の悪化等の問題を生じさせるヒシの大量繁茂の対策として、官民協働で手作業によるヒシの除去作業を行っています。

令和5年度は7月6日～8日の3日間、諏訪市セーリング協会の皆様のご協力をいただき、初島周辺で刈取作業を行いました。今年度は、4年ぶりに3日間とも一般の方にも募集をかけ、上諏訪中学校、長野日本大学高等学校等の子どもたちを含む延べ147名の皆様のご参加により、計3.5トンのヒシを刈取りました。

最終日の7月8日は、ヒシの刈取に先立ち、水草の学習会と稚エビの放流体験を行いました。諏訪市のゆめプロ(すわ未来創造「子どもゆめプロジェクト」)メンバーの小中学生を中心に多くの子どもたちにもご参加いただきました。



諏訪湖創生ビジョン推進会議は、「人と生き物が共存し誰もが訪れたいくなる諏訪湖」の実現を目指し取り組みます。
事務局: 諏訪地域振興局企画振興課 TEL: 0266-57-2901